

ひとりひとり自分らしく 個性と個性が生み出す調和

ハーモニー

市民活動課（内線357）

男女双方の視点で、 いざというときに備えよう！

昨年は、能登半島地震をはじめ各地で災害を目の当たりにすることが多い一年でした。皆さんは、「いざというときの備え」をしていますか？

過去の震災では、避難所での特に女性への配慮が課題になりました。授乳や着替えの場所が確保されなかったり、女性特有のニーズを伝えることができなかったりして、心身に大きな負担を感じた女性が多くいたことが報告されています。

避難所運営の多くは、各町の町内会が中心になって行われますが、そのリーダーは男性が担っていることが多く、女性の意見が反映されにくい状況になっています。より良い避難所運営をするためには、女性の参画も欠かせません。

防災と聞くと、男性のイメージが浮かぶ。そんなことはありませんか？いつ起こるか分からない災害に備え、男女双方の視点で防災を考えることが大切です。

小さな一歩が大きなアクションに

今日から始めよう SDGs

政策推進課（内線514）

70年のまちづくり



2月1日で土岐市が誕生して70年。まちの風景は、時代とともに少しずつ変化してきました。道路や下水道のほか、商業施設なども整備され、快適・便利で住みやすいまちになりました。その一方で、ごみの増加や交通渋滞、環境問題など、取り組まなければならない課題が増えてきています。

SDGsの目標11は「住み続けられるまちづくりを」です。この目標は、みんなが住みやすい都市を維持していくことを目指すものです。快適さや便利さだけでなく、環境への配慮など、いかにこのまちに住み続けられるかも考えていかなければなりません。

今後、100年、200年と土岐市を持続させていくためには、皆さんの力が必要です。未来の土岐市に思いをめぐらし、より良いまちとなるよう一緒に取り組んでいきましょう。

取り組んでみよう

- ・自分の住むまちの課題を考えてみましょう
- ・清掃活動に積極的に参加しましょう

気温が少し暖かくなり、
椿の花が咲きました。妻木
の城跡に咲いています。
椿は西洋で、日本のバラ
とも呼ばれています。
美しさの中にも、どこか
謙虚な一面を感じさせてく
れる花です。
はつきりとした色合いで、
日本の花特有の奥ゆかしさ
を感じます。



撮影班：1年 長江湧樹・有賀亮太

土岐商写真部×広報とき

土岐の写真撮影隊

Vol. 21 「椿」